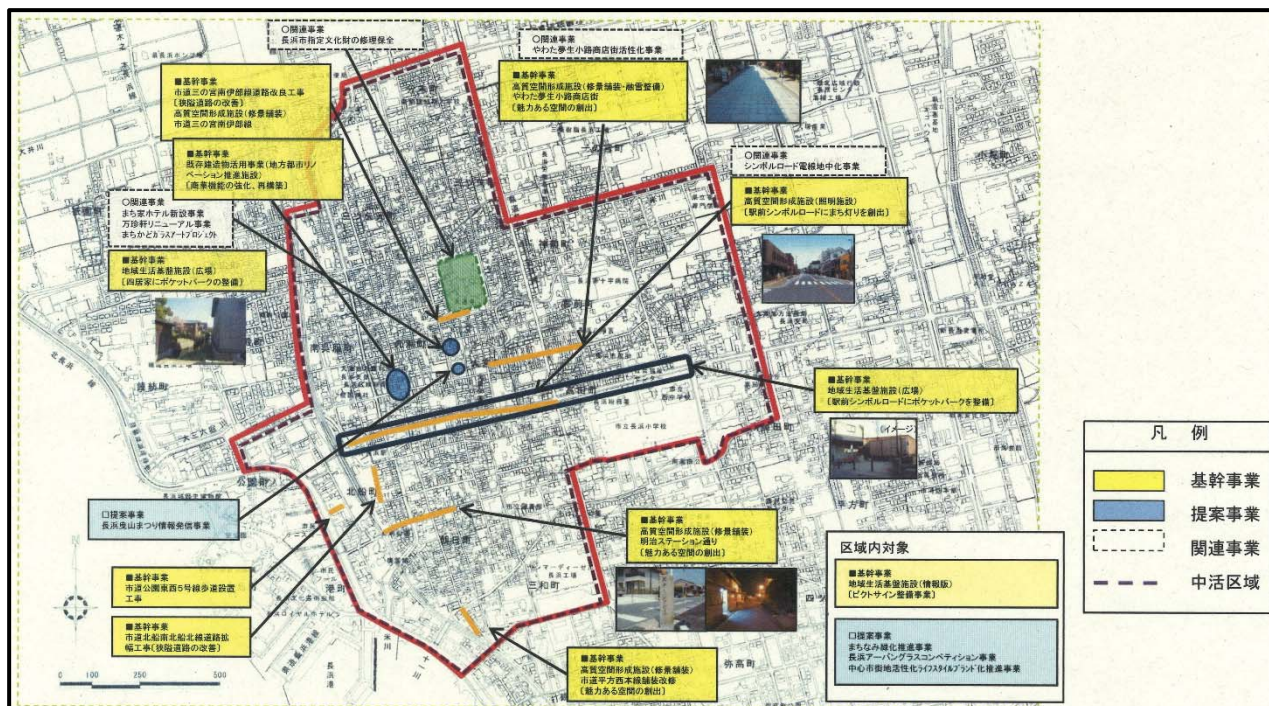


その
他
防災・減災
子育て支援
健康・医療
経済活性化
交通利便性向上
コンパクトシティ
観光・交流

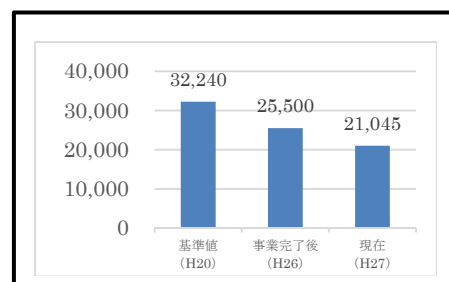


■まちづくりの実施効果

定量的な効果

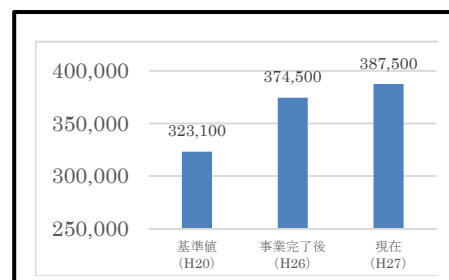
●歩行者・自転車通行量

中心市街地の賑わい創出を支える大きな要素である団体観光客の来街者数が基準年と比べ減少していることで、全体の通行量は減少傾向となっているが、当該事業箇所付近の調査ポイントでは、修景整備等の効果により、事業完了後も通行量は概ね堅調に増加している。



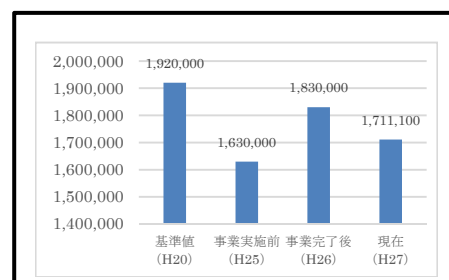
●宿泊観光客

町家を活用した宿泊施設の整備や宿泊滞在を促進するイベントの開催、外国人観光客の増加により、事業完了後も継続して増え続けている。



●黒壁への年間観光客数

施設リニューアルの実施や各種イベントの開催により一定の入込効果は得られており、基準年とまではいかないが、事業実施前からは、活性化が見られる。



定性的な効果

- ・観光動線となる道路の修景舗装やピクトサイン整備により回遊性が高まり、風情あるまちなみ景観を作り出すことができている。また、曳山まつり等イベントを通じて、地域そのものを対外的に情報発信することで、地域の活性化が見られるとともに、ポケットパークの整備により、観光客はもとより地域の人々の憩いの場として利用されている。



■効果を継続させるための今後の取組み等

- ・まちなみの修景保存として、まちの質を上げる環境と効果を活かす仕掛けづくりやPR戦略等、地域が一体となって取り組み、まちの核としてその求心力を高め、地域の活性化を図る。

■地区 PR 欄

●官民連携による中心市街地の再生

本市では、昭和 50 年代に郊外バイパス整備を契機に商業施設の郊外移転や住宅開発が進んだため、長浜駅を中心とした中心市街地では空洞化が進み、都市としての求心力も低下していました。一方で、中心市街地には古いまちなみや伝統文化など地域の歴史的資源も色濃く残されており、こうした地域特有のストックを活用した官民連携によるハード・ソフト両面から事業を展開し、新たな賑わいの創出や観光客の誘客に取り組んできたことから、長浜駅を中心とした中心市街地を「中心拠点区域」に位置づけています。



また、都市を構成する公的不動産（公共施設等）については、機能の集約化や地域による主体的な施設運営、多目的な利用・多機能化、さらに他の目的への転用の可能性が低い不動産の民間売却・貸付を行うといった有効活用方針を定めており、特に民間活動が積極的な中心拠点区域においては、公共が保有する価値ある資源や低未利用地を民間が活用し、集客の核となる商業施設の面的整備を図るほか、回遊性を高めるための道路整備や古いまちなみを観光資源として活用することにより、都市機能の拡散防止や中心市街地の求心力の向上、交流の拡大を図っています。

〔事業例〕

・民間都市機能施設整備（黒壁スクエアリノベーション）

この事業は、黒壁が誕生してちょうど 25 年となる年に、建物を大規模改修し、店舗の業態や機能を変更して付加価値をつける取組を、その時に制度化された地方都市リノベーション事業として実施しました。この店舗は元々地元の名産品などを扱う土産屋でした。それを滋賀の歴史風土や文化に根ざして取り組んでいる職人の技に焦点を当て、その商品とともに生産者の思いを提供する場へと生まれ変わり、活性化が図られました。

